

イネ品種とセジロウカの寄生密度

原 栄一・斉 藤 満

(群馬県病害虫防除所)

セジロウカは、県内においては毎年発生している害虫であるが、稲に吸汁害が出るほどの発生は現在まで記録にない。58年はウンカ類の飛来数が多く、しかも梅雨明け後の好天候により増殖が盛んとなったため、県内各地の縞葉枯病抵抗性品種や飼料稲を中心に多発し、特に飼料稲においては、圃場全面が枯れ上ってしまったものもあるので、その発生概要を報告する。報告に当たり前橋、伊勢崎、藤岡の農業改良普及所関係職員に対し厚く御礼申しあげる。

調査地点、時期及び調査品種

前橋市東大室	9月19日	むさしこがね, アキニシキ
境町 上武士	9月22日	むさしこがね, 日本晴
藤岡市三ツ木	9月9日	むさしこがね, アキニシキ
藤岡市 篠塚	9月9日	ブリティッシュ・ホンジュラス, 満月もち, アキニシキ, 日本晴

調査方法

径36cm捕虫網によるすくい取り。片道50回振り。

調査結果及び考察

前橋市東大室のむさしこがね栽培圃場では、スス病の発生がひどく、7万~9万頭以上の虫が採集された。

境町上武士のむさしこがねA圃場は、スス病がかなり発生し、すくい取りで約6万頭採集されたが、むさしこがねB圃場ではスス病は見られず、虫も535頭採集されたのみであった。A, B圃場は距離的には近く、寄生数の差は薬剤防除の多少によるものと思われる。

藤岡市三ツ木では、むさしこがねA圃場の全面にスス病が発生し、穂の出すくみが多く見られた。すくい取りでは約10万頭採集されたが、B圃場では約2万頭と少なかった。A, B圃場は隣接しているので、寄生数の差は境町同様、薬剤防除回数の違いによるものと思われる。

藤岡市篠塚では、飼料米のブリティッシュ・ホンジュラスで約34万頭採集された。この圃場は、調査時

第1表 セジロウカの発生状況

地点	品種	成虫	幼虫	合計
前橋市東大室	むさしこがねA	49,920	21,520	71,440
	〃 B	79,360	16,080	95,440
	アキニシキ	2,590	1,950	4,540
境町上武士	むさしこがねA	50,240	12,850	63,090
	〃 B	420	115	535
	日本晴	180	125	305
藤岡市三ツ木	むさしこがねA	62,240	37,360	99,600
	〃 B	12,460	9,520	21,980
	アキニシキ	680	2,450	3,130
藤岡市篠塚	ホンジュラス	319,360	21,440	340,800
	満月もち	51,840	1,440	53,280
	日本晴	1,870	1,240	3,110
	アキニシキ	980	870	1,850

にすでに葉が褐変しはじめ、9月下旬にはすっかり枯れあがってしまった。また、満月もちの圃場をすくった結果約5万頭が採集され、スス病も多く見られた。

このほか虫の調査はできなかったが、前橋市の木瀬農協管内のブリティッシュ・ホンジュラス20a, 南部農協管内の約5ha, 上川刈農協管内の2haにもセジロウカが激発し全面枯れあがった圃場も見られた。また、各地区とも栽培面積の多いアキニシキ, 日本晴を比較の意味で調査した結果、300~4,500頭の数値が得られたが、飼料米, 縞葉枯病抵抗性品種の周辺圃場では虫, スス病とも多い傾向がみられた。以上のことから、セジロウカの寄生, 被害は飼料米に特に多く、ついで縞葉枯病抵抗性品種, もち品種等に多いことが判明した。この原因については様々なことが考えられるが、機会があったら検討してみたいと考えている。